

令和８年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 本校の教育の特色であるデザイン及び芸術系列の専門性の進展をはかる教育を通して、真実を求め、勤労を尊び、美を愛する心を有する生徒の育成を目標とする。また、総合学科でありながらも、ものづくりの実践を通して変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体という「知・徳・体」三つバランスのとれた「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。
- 1 命の大切さを理解し違いを認め合い、お互いを尊重し合う心を育てる。
 - 2 生徒一人ひとりが自己実現を図り、主体的に進路選択することをめざす。
 - 3 学ぶ喜び、わかる喜び、達成感を味わわせ、生涯にわたって学び続ける態度を育成する。
 - 4 生徒と教員が信頼関係を築き、個々の生徒に寄り添い、学校が心の居場所となるよう努める。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の定着と学びの深化
 - (1)本校は小・中学校で不登校を経験している生徒が在籍している。そのため、社会的自立をめざす観点から、個々の生徒の実態に応じた学習支援に努め、個々の生徒の学力を把握したうえで「わかる授業」「魅力ある授業」を効果的に実践し、生徒が達成感を味わい、自尊感情を高められるよう指導を行う。
 - ア 生徒の興味・関心を高める教科・科目の設定を行い、生徒の「学ぼうとする意欲」を高め、基礎的・基本的な知識・技能・教養を定着させる。
 - イ 生徒支援の観点から、知識、意欲、適性、学習歴等の個別データ等を教職員全員が共有することで、きめ細かな指導を行うとともに、学校教育活動全般を通じ、生徒の「学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力」を定着させる。
 - ウ 指導と評価の一体化の観点から、授業改善に努める。
 - エ 生徒の状況や地域の実態に応じて、適切な教育課程を編成するとともに特色ある教育活動を展開する。
 - ※ 授業アンケートにおいて、「授業は、わかりやすく楽しい」(R5:82%,R6:81%,R7:86%)の肯定的な回答 80%以上を維持する。
 - ※ 生徒情報交換会は月2回を定例とし、加えて年2回の生徒現況報告会議を開催する。
 - ※ 進級・卒業率を令和10年度まで85%以上を維持する。(R5:89%,R6:81%,R7:85%)
 - (2)「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実
 - ア 支援教育コーディネーターを中心に、障がいに対する理解を深め、早期に個々の生徒の困り感を感じ取り、必要な支援に結び付けていく。
 - イ 個別の支援計画・指導計画の充実を図り、将来に渡って繋いでいく教育をめざす。
 - ウ 必要に応じて、保健・医療・福祉等の関係機関との連携を図り、SCやSSW等を活用する。
- 2 豊かな心と健やかな身体の育成
 - (1) 規律・規範のある学校環境をつくり、様々な活動を通して、豊かな心と自律心をはぐくむ取組みを推進する。
 - ア 地域連携による体験教室等の実施を通じて、生徒の社会貢献への意識を高めるとともに、コミュニケーション能力や主体性を育む。
 - イ 多様な学校行事や系統的な教育プログラムを通じ、互いの多様性を認め合い、共に学び成長できる安心感のある集団づくりを行う。
 - ※ 学校アンケートにおいて「入学させて良かった」とする保護者の肯定的な回答 90%以上を維持する。(R5:98%,R6:98%,R7:100%)
加えて、「入学して満足している」とする生徒の肯定的な回答 90%以上を維持する。(R5:89%,R6:91%,R7:91%)
 - ウ いじめの防止、中途退学・不登校の未然防止を推進する。
 - エ 情報モラルの育成、学びに向かう環境づくりの充実を推進する。
 - オ 人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。
 - (2) 生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくり
 - ア 学校全体として健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒および教職員の健康増進と安全確保を推進する。
 - イ 全教職員が一致した協力体制を構築し、問題事象等には迅速で適切な対応を図る。
 - ウ 教育相談体制の充実と生徒情報の共有を図る。
 - エ 家庭、地域との連携を推進し、情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。
 - オ 学校の教育活動中の事故防止等に取り組む。
- 3 将来をみすえた自主性・自立性の育成、キャリア教育の推進
 - ア 卒業までを見通した進路指導計画に基づき、在校生の就労率や就労体験率を向上させる。
 - ※ 卒業時の進路決定率を令和10年度まで年次向上させ、100%(就職は就労率)をめざす。(R5:79%,R6:81%,R7:92%)
 - イ 教員のキャリアカウンセリング力を向上させるための研修や外部人材の活用を推進する。
 - ウ 最終学年までに一人ひとりの生徒が自分の適性を知り、将来の進路を真摯に見据えた行動や態度を自発的に取れるよう取り組む。
- 4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり
 - (1) 校長のリーダーシップによる学校経営の確立
 - ア すべての教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場環境づくりに努め、教職員の組織力の向上をめざす。
 - イ 危機管理事案に対して、適切に対応できる組織となっているか、常に見直しを図る。
 - ウ 自校の教育活動が体系的かつ継続的なものとなるよう、学校を取り巻く課題等の検討を図る。
 - (2) 学び続ける教員集団の形成
 - ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修の実施や教員の自主研修を奨励し、人材の育成を図る。
 - イ 現場のニーズに即した校内研修を計画的に行うことにより、教員力の向上を図る。
 - (3) 働き方改革への取組み
 - ア 時間外在校等時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図る。
 - ※ 時間外在校等時間が720時間を超える教育職員を引き続きゼロにし、月平均30時間以上の者を令和10年度までにゼロにする。(R7:3人)
 - イ 定時退庁の促進、一斉閉庁日の活用ならびに有効な休暇取得の促進を図る。
 - ※ 教職員の年次休暇取得日数を令和10年度までに16日以上にする。(R7:17日)
 - ウ 教職員の業務の負担軽減化・分散化を図り、健康増進・ストレス軽減に向け、働きやすい職場環境を実現する。
 - エ 各種ハラスメント防止に対する意識の啓発を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和８年１２月実施分〕	学校運営協議会からの意見
	第１回
	第２回
	第３回

３ 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R7年度値〕	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	（１）確かな学力の定着と学びの深化 ア 「確かな学力」の育成	（１） ア 毎時間の振り返りシートの活用や面談等により、生徒の理解度を的確に把握し、学習の土台となる重要箇所重点を置いた授業を展開する。ICT の活用や個別指導の充実により、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、『わかる・できる』ことの継続的な実感を通して、学習達成感を醸成する。	（１） ア 学校教育自己診断(生徒③)「授業は、わかりやすく楽しい」、授業アンケート⑧「授業内容に興味・関心を持つことができた」肯定率 85%以上維持〔③86%、⑧91%〕	
	イ コミュニケーション力の育成	イ 課題を探究する中で、他者と協働して課題を解決しようとする活動や情報収集、整理・分析、まとめ、表現する活動を行う。	イ 学校教育自己診断(生徒④)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」肯定率 75%以上維持。〔78%〕	
	ウ 授業改善	ウ 定期考査だけでなく、小テストによって単元ごとの個々の理解度を確認し、振り返りを行う授業を展開することや、授業アンケートの結果を踏まえることにより授業を改善する。	ウ 授業アンケート⑦「先生は生徒の意見を取り入れ、授業改善に生かしている。」学校教育自己診断（教職員⑤）「各教科において、教材の精選・工夫を行っている。」肯定率 90%以上維持。〔⑦92%、⑤95%〕	
	エ 教育課程の編成	エ 造形教養系列の選択科目や工芸学において、学習指導要領に基づき、生徒の状況に応じた指導計画を作成する。	エ 学校教育自己診断(教職員②)「教育課程の編成に当たって、学習指導要領の趣旨が生かされている。」(生徒②・保護者③)「他の学校にない特色ある。」肯定率 95%以上維持。〔②100%、②99%、③98%〕	
	（２）支援教育相談体制の構築	（２） 家庭や中学校、前籍校等との丁寧な連携により生徒理解を深め、SC や SSW 等の専門スタッフを交えたケース会議を定期的に開催する。全職員で支援情報を組織的に共有・更新する体制を構築し、外部機関とも柔軟に連携しながら、生徒一人一人の背景に応じた重層的な支援の充実を図る。	（２） ・ 中学校、前籍校連携 100%維持。〔100%〕 ・ 支援教育相談委員会の会議を年 12 回定例として開催する。〔12 回〕	
	（１）豊かな心と自律心、協調性を育む ア 地域連携・地域貢献	（１） ア 工業科目を有する定時制の総合学科として、体験教室を開催し、生徒の自己有用感を高めるとともに実業高校の魅力を地域の小中学生に伝える。	（１） ア アベノキッズサマープロジェクトと産業教育フェアにおいて、体験教室等を開催する。生徒参加率 60%以上〔新規〕	

府立工芸高等学校

2 豊かな心と健やかな体の育成	イ 学校行事の充実	イ 生徒の主体性と連帯感を育むため、生徒発案型行事の定例化を推進し、自ら学校生活を創り出す機会を充実させる。同時に、本校の実態に即して既存行事の精選・重点化を図ることで、一つ一つの行事の質を高め、生徒が達成感や自己有用感を実感できる学校行事を展開する。	イ・学校教育自己診断(生徒⑪)「行事は楽しく行えるよう工夫されている。」肯定率 90%以上維持。[94%] ・行事の平均参加率前年度以上 [72%]	
	ウ 中退・不登校の未然防止	ウ 生徒の安心感と帰属意識を高めるため、始業前の居場所を定期開設し、内容の拡充を図る。生徒同士や教職員、外部専門員との日常的な接点を増やすことで、生徒の小さな変容を早期に察知し、中退・不登校の未然防止につなげる。	ウ・食堂の居場所を週 1 回開設。[30 回] ・図書室の居場所を週 4 回開設。[新規] ・進級・卒業率 80%以上。[85%]	
	エ いじめ防止・情報モラルの育成	エ 人を傷つけない言語表現の学習や情報モラル教育、法教育といった発達支援的生徒指導を推進する。	エ 学校教育自己診断いじめ関連項目の肯定率 90%以上維持。[生徒⑥ 93%、保護者⑦92%、教職員⑫91%]	
	オ 人権教育の推進	オ 同和問題の歴史的背景や現状についての正しい理解を深めるため、外部講師を招き講演会を実施する。また、生徒が互いの尊厳を認め合い、差別を許さない集団づくりを推進することで、差別のない学校文化の醸成に努める。	オ 学校教育自己診断(生徒⑬)「人権について学ぶ機会がある。」肯定率 90%以上維持。[96%]	
	(2) 安心して通える学校づくり	(2)	(2)	
	ア 健康安全教育の推進	ア 定期健康診断の事後指導や専門家による健康に関する講演会の実施により、自己管理能力の育成と生活習慣の改善を図る。また、外部機関と連携した交通安全教室や薬物乱用防止教室等を実施し、登下校時の事故防止や犯罪被害の未然防止に向けた実践的な意識の向上を図る。	ア・健康に関する講演会を年 4 回実施。[4 回] ・安全教育関連行事の平均肯定率 80%以上。[交通安全 100%]	
	イ 問題事象への適切な対応	イ 事象の早期発見・早期対応に向け、組織的な初動体制を確立し、指導方針の迅速な統一を図る。単なる事実確認に留まらず、生徒の背景や特性を考慮した丁寧な聞き取りを行い、関係機関とも連携した粘り強い指導と再発防止を推進する。	イ 学校教育自己診断(保護者⑨)「生徒指導の方針に共感できる。」の肯定率 90 % 以上維持。[95%] (教職員⑩)「問題事象への組織的対応」の肯定率 80 % 以上維持。[81%]	
	ウ 教育相談体制の充実と生徒情報の共有	ウ 組織的な生徒支援を強化するため、月 2 回の情報交換会と週 2 回の連絡会を定例化し、全職員での迅速な情報共有と支援方針の統一を図る。また、SC・SSW によるコンサルテーションを定例化して教職員の専門性を高め、多角的な視点に基づいた迅速かつ的確な組織対応を推進する。	ウ 学校教育自己診断(生徒⑧)の肯定率 75%以上維持。[76%]、(保護者⑥)の肯定率 95%以上維持。[98%]、(教職員⑪)の肯定率 90%以上維持。[91%]	
	エ 開かれた学校づくり	エ 生徒自身の言葉による積極的な情報発信と、デジタルツールを軸とした家庭・地域との双方向連携を強化し、本校の教育活動の可視化と信頼される学校づくりを推進する。	エ・生徒のコメントを掲載した学校 HP 記事を年間 5 回以上 [2 回] ・学校教育自己診断(保護者⑯～⑲)平均肯定率前年度以上。[85%]	
3 将来を見据えた自己実現	(1) キャリア教育の推進	(1) ・進路指導計画に基づき、キャリア教育を実施すると、アルバイトの推奨等も通じて社会参加意識と勤労観を育む。 ・ハローワーク等の外部機関と緊密に連携し、就職ガイダンス等を通じた就労意欲の喚起と情報提供を強化する。	(1) ・外部連携したキャリア教育を年 3 回以上実施する。[3 回] ・学校教育自己診断(生徒⑩・保護者⑩)の肯定率 90%以上維持。[91%、90%]、(教職員⑭) 80%以上維持。[81%]	

府立工芸高等学校

主 性 ・ 自 立 性 の 育 成		・進路指導課や学年団、SSW と連携した個別相談体制を通じて卒業後の課題を整理し、きめ細かな就労支援と個別指導を充実させる。 ・各種検定やコンテストへの挑戦を支援し、専門的知識・技能の修得とともに、自らの進路を切り拓く主体的な力を育成する。	・卒業予定者のうち学校幹旋による就職希望者の就職内定率 85 % 以上。[92%] 進学希望者の進学率 85%以上。[90%] ・学校教育自己診断(生徒⑨)「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率 90%以上 [90%]	
4 力 と 熱 意 を 備 え た 教 員 と 学 校 組 織 づ く り	(1) 学校経営の確立 アウ 教職員の組織力の向上 イ 危機管理事案への対応 (2) 学び続ける教員集団の形成 ア 人材育成 イ 校内研修の充実 (3) 働き方改革への取組み ア 時間外在校時間の縮減 イ 定時退庁及び有効な休暇取得の促進 ウ 働きやすい職場環境づくり	(1) アウ 経営方針を全職員で共有し、分掌・学年の役割と責任を明確にすることで、機動的な組織運営を推進する。会議体の精選や情報のデジタル化等により、重要事項の迅速な決定と周知徹底を図るとともに、教職員間の対話を重視し、組織的な課題解決にあたる体制を構築する。 イ 自らが危険を予測し、回避する能力を養うため、ブラインド訓練や、地域と連携した防災学習を実施し、自助・共助の精神を涵養する。 ア 複数担任制による OJT や授業見学を推進し、同僚性を構築する。SC・SSW によるコンサルテーションや事例共有を仕組み化し、組織的な生徒支援力と専門性の向上を図る。 イ 総括会議において研修の精選や学校のニーズに合う研修の計画を行う。 (3) ア 分掌再編による業務の適正化と ICT 活用による校務の効率化を推進し、総労働時間の抑制を図る。 イ 学校閉庁日を最大限設定する。複数担任制による相互補完体制を活かして特定の職員への負担集中を防ぎ、教職員が心身のゆとりを持って生徒支援に注力できる環境を整える。 ウ 複数担任制や学年・分掌のチームによる対応を徹底し、個々の教職員が課題を抱え込まない体制を構築する。日常的な対話や情報共有を仕組み化することで、互いに尊重し助け合える心理的安全性の高い職場環境を醸成し、教職員の心身の健康維持を図る。	(1) アウ ・会議や打合せにおける決定事項のデジタル共有率 100%をめざす。 [新規] ・学校教育自己診断(教職員⑫)「学校運営が組織的に運営されている。」肯定率 75%以上 [71%] イ ・防災訓練を学期に 1 回、うち 1 回はブラインド訓練とする。[年 3 回] ・学校教育自己診断(生徒⑭)「学校で災害時、どう行動したらよいか知らされている。」肯定率 90%以上維持。[92%] ア 学校教育自己診断(生徒⑱)「他の先生が授業見学に来ることがある。」(教職員⑳)「経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制が取れている」肯定率 90%以上。 [⑱89%、⑳91%] イ 学校教育自己診断(教職員㉑)「校内研修は教育実践に役立つような内容となっており、計画的に実施されている。」肯定率 90 % 以上維持。 [91%] (3) ア 時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員を引き続きゼロにし、 月 45 時間以上の教職員を 0 人にする。[2 人] イ ・学校閉庁日を 15 日設定する。[14 日] ・年次休暇取得日数の平均 16 日以上。[17 日] ウ 学校教育自己診断(教職員㉒)「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」肯定率 80%以上維持。[81%]	

府立工芸高等学校

	エ ハラスメント防止に対する意識の啓発	エ ハラスメント防止研修に加え、日常の言動を見直す機会を連絡会等で設け、互いに尊重し合う組織文化を醸成する。全教職員が服務規律を自覚し、高い倫理観を持って教育活動に専念できる環境を整える。	エ・外部講師によるハラスメント防止研修の実施。 ・学校教育自己診断(教職員⑱)「教職員の服務規律の自覚が高い。」肯定率 80%以上。[76%]	
--	------------------------	---	--	--